

教育委員会の点検・評価報告書

(平成26年4月～平成27年3月対象)

平成27年6月

館山市教育委員会

点検・評価報告書

1 点検・評価の期間

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

2 点検・評価の方法

館山市教育基本計画（平成24年度～平成28年度）の事務事業の進捗状況等をもとに自己点検・評価を行った。なお、教育に関し学識経験を有する者（館山市PTA連絡協議会会長、学校評議員代表、館山市社会教育委員会議長、館山市体育協会会長の4名）の意見を聴取し、点検・評価の客観性の確保に努めた。

3 点検・評価の結果

別紙のとおり

4 点検・評価の一般への公開

館山市ホームページにて公開

I 学校教育の充実

第1節 幼児教育の充実と子育て環境の充実

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭，保育園，こども園，幼稚園，小学校，地域との連携・協力を図り，幼児期の一貫した教育を推進するとともに，教具や遊具などの施設整備を計画的に進めます。 ・就園前の幼児・保護者との交流機会の提供や預かり保育を積極的に行うとともに，子育てに必要な情報提供に努め，幼稚園の「子育て支援センター」としての機能の充実を図ります。 ・世帯の状況に応じて保育料等経済的負担の軽減を図り，教育環境の充実を図るため，適切な補助を行います。 ・幼稚園の運営支援や，研究園の指定によるカリキュラムの調査研究など，幼児教育の充実に努めます。
--------	--

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
幼児教育の充実 【教育総務課・学校教育課・図書館・こども課】	<p>「子育て家庭を支援するまち」・「子どもを産み育てたくなるまち」の実現を目指し，交流保育や預かり保育，幼保一元化の推進，各種事業の継続などの幼児教育の充実に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ちびっ子デー（未就園児の入園体験）の実施 ■幼稚園・保育園・こども園・小学校との連携 ■子育て支援センターとしての機能充実 ■預かり保育の実施 ■研究園の指定 <ul style="list-style-type: none"> 平成 24・25 年度 北条幼稚園 平成 26・27 年度 那古幼稚園 館野幼稚園 平成 28・29 年度 館山幼稚園 ■幼保一元化事業：船形こども園，九重こども園（平成 25 年度開園） ■おはなし会，わらべうたの会の開催
実施状況	<p>【幼稚園・こども園】</p> <p><ちびっ子デー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間 5 回（こども園は 16 回）未就園児とその保護者を対象に体験入園を実施しました。 ・必要に応じて，保護者からの子育ての悩みや幼稚園生活についての相談にのりました。 <p><幼稚園・保育園・こども園・小学校との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会や避難訓練，観劇などの小学校行事に参加したり，交流会を実施したりしました。 ・保育園との交流会として，お互いの園を行き来して，水遊びや近隣の散歩，観劇を実施しました。 <p><子育て支援センターとしての機能充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に教育相談，子育て相談を行い，保護者の悩みを共感し，子どもの成長を伝えていくことで，子育ての喜びを感じてもらえるよう取り組みました。 ・「元気な広場」の出張子育てひろばを開設しました。（船形こども園） <p><預かり保育の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・14：00～15：00 に指導計画に基づいて実施しています。 ・折り紙・制作・ゲーム遊びなどを実施しています。 <p><研究園の指定></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・北条幼稚園では千葉県国公立幼稚園協会指定公開研究会を実施しました。 ・平成 26・27 年度に研究園に指定されている那古幼稚園と館野幼稚園では、協同的な活動に取り組むプロセスについて研究を進めています。 ＜おはなし会の開催＞ ・年間 5～7 回ボランティアによる読み聞かせを実施しています。 【図書館】 ＜おはなし会，わらべうたの会の開催＞ （平成 27 年 1 月末現在） ・おはなし会（児童向け）実施回数 19 回 参加者 389 人 ・おはなし会（幼児向け）実施回数 8 回 参加者 99 人 ・わらべうたの会（乳幼児向け）実施回数 7 回 参加者 103 人 【小学校】 ・市内幼稚園は小学校と隣接し，小学校長が幼稚園長を兼ねているため，幼小の連携行事や授業が行われています（小学校行事の見学，避難訓練・運動会・六年生を送る会等の共催）。 ・新入生体験入学，新入生説明会の開催 ・幼稚園にて 5 年生の職場体験の実施 ・幼稚園父母の会と小学校 P T A の合同行事等開催 ・幼稚園行事のための学校施設開放の積極的推進 ・1 年生，こども園合同観劇
<p>成果と課題 〔○成果◆課題〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【幼稚園・こども園】 ＜ちびっ子デー＞ ○在園児とかかわって遊び，保護者同士の情報交換の場にもなっており，入園希望者のほとんどが参加しています。 ◆ちびっ子デーを運営する保護者ボランティアの確保が必要です。 ＜幼稚園・保育園・こども園・小学校との連携＞ ○児童と園児，職員同士の親交が深まりました。 ○一緒に遊んだり，校内を案内してもらったりすることで，就学への期待が高まりました。 ○前年度より交流の機会が増えました。 ○園外に出ることで，緊張感や他の施設の利用などを体験できる場になりました。 ◆園舎が分断されていることで，避難場所や避難経路が変わるため，今後も密な計画のやり取りが必要です。 ＜子育て支援センターとしての機能充実＞ ○随時，個別に子育て相談や発達についてのアドバイスをを行ったことで，保護者が自分の子育てを振り返ったり，子どもの発達に見通しを持ったりすることができ，子育ての不安を取り除くことができました。 ○出張子育てひろばを開催することで支援センターとしての認知度が上がり，来園者や相談者が増えました。 ◆園のプレイルームを提供しているため，雨天の日や行事等で園の子ども達が思うように使用できないため，できれば支援センター用の部屋があると望ましいです。 ＜研究園の指定＞ ○2 園研修は時間のない中で，両園の職員が協力し合い行えました。 ○主体的に活動し，心と体を弾ませて遊ぶ子どもを育てることができました。 ○興味や意欲が膨らむような環境構成を工夫することで，子ども達が主

	<p>体的に活動することができました。</p> <p>◆保育環境の工夫と、指導計画の見直しや保育カンファレンスは今後もさらに実施します。</p> <p><おはなし会の開催></p> <p>○移動図書館での貸し出しを楽しみに待つようになり、借りたい絵本を探すようになりました。</p> <p>○市の図書館利用が増えました。</p> <p>○職員の読み聞かせの勉強になりました。</p> <p>【図書館】</p> <p><おはなし会、わらべうたの会の開催></p> <p>○成長に応じて本を楽しむ機会を提供することで、本を通じて親子のコミュニケーションが深まり、子どもが本の楽しみを知り読書へとつながるという効果がありました。「お庭でおはなし会」では、季節を感じながらのおはなし会ができ、また読み聞かせ等ボランティア活動もあり、子どもたちと地域の住民との新たな交流も生まれました。</p> <p>◆事業の継続と、協力してくれるボランティアの養成や研修の必要があります。</p> <p>【小学校】</p> <p>○幼小職員が連携を密にし、共通のねらいのもと指導にあたることができました。</p> <p>○保護者、新入生ともに、入学に向けた前向きな意識を持つことができました。また、新入生の状況を知る貴重な機会となっています。</p> <p>○幼小が同じ敷地内にあるため、交流がスムーズにできています。</p> <p>○1年生なりに上級生としての自覚を持って交流活動を行っています。</p> <p>○幼稚園児はスムーズに小学校入学ができています。</p> <p>◆幼稚園との関わりに偏ってしまい、保育園との交流が持てないことが課題でした。</p> <p>◆保護者や児童は、固定的な人間関係が幼稚園から小学校卒業まで長く続くことにより、PTA役員選出が困難になったり、活動がマンネリ化する傾向があります。</p> <p>◆年間計画の中で、幼・小の職員が更に意図的に交流できる場面を設定する必要があります。</p> <p>◆幼稚園独自に考える避難方法等が必要です。</p>
--	--

<p>子育て環境の充実 【教育総務課・こども課】</p>	<p>幼稚園教育の充実や円滑な管理運営のための教育環境整備、世帯の状況に応じた経済的な支援など、子育て環境の充実に努めます。</p> <p>■教具・遊具などの計画的な整備</p> <p>■世帯の所得に応じた保育料等の経済的負担の軽減</p>
<p>実 施 状 況</p>	<p>【幼稚園・こども園】</p> <p><教具・遊具などの計画的な整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、全職員で安全点検を実施し、危険個所や不具合について早期発見に努め、迅速な対応をしています。 ・老朽化していた遊具を撤去し、新しい遊具を設置しました。 <p>【こども課】</p> <p><教育環境整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども・子育て関連3法」の成立に伴い、幼稚園の入園等に関する事務を、こども課内に設置した幼保係に移し、幼稚園、保育園、こども園の窓口を一本化しました。
<p>成 果 と 課 題</p>	<p>【幼稚園・こども園】</p>

〔○成果◆課題〕	<p><教具・遊具などの計画的な整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ○早急な対応で修繕を実施できました。 ○毎月の安全点検で遊具等の不具合を発見しました。 ○要望していた老朽化遊具が撤去されました。 ◆大型遊具については目視だけでは安全確認に限界があるので、専門業者による点検を毎年実施することが望ましいです。 ◆施設設備・園庭固定遊具の老朽化が見られます。
----------	---

第2節 教育内容の充実

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」を支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視した教育を推進します。 ・平成23年度から完全実施された小学校における外国語活動の充実に向け、配置するALTを最大限活用し、外国語教育、国際理解教育をさらに推進します。 ・現代的課題に対応すべく、マイスクールボランティア等、地域の教育力を積極的に活用した教育を推進します。 ・健康・体力づくりを推進します。 ・一人ひとりの特性やライフステージ、教育的ニーズに対応した学習支援のための支援員を配置するなど特別支援教育体制を整備します。 ・幼稚園・保育園の適正な規模や運営形態について検討します。 ・学校給食センターの栄養士による、食に関する指導事業を実施します。
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
<p>「生きる力」を育成する教育の推進 【学校教育課・図書館】</p>	<p>「生きる力」の育成を目指し、「確かな学力」の育成のため、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、授業時数の確保、学習意欲の向上や学習習慣の確立、また、「豊かな心」「健やかな体」の育成のため、読書活動・道徳教育の充実、体験活動の充実、体育・食育の充実等を推進し、特色ある教育課程の編成を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学力向上プロジェクト委員会を通して、各校の具体的な取組を推進 ■道徳教育充実のための市独自の教材作成 ■読み聞かせ・ブックトーク、学習支援及び資料の団体貸出事業
実施状況	<p>【学校教育課・小中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育問題研究委員会では、昨年に引き続き「歴史副読本『さとみ物語』を活用した地域学習における館山市モデルの作成」を行い、小中学校モデル校による授業実践を行いました。 ・学力向上プロジェクト委員会を中学校区の小中学校で行いました。 ・全国学力・学習状況調査の結果を分析し、中学校区の小中学校が連携しながら具体的な方策を考えて実践しました。 ・中学校区の小学校が連携し、年3回の漢字・計算検定を行い、基礎学力の向上を図りました。 ・中学校区の教員で授業改善や指導力向上に向けた授業参観を行いました。 ・学校行事、教科指導において、地域人材を外部講師や学習支援ボランティア等で活用しました。 ・わかる授業づくり（学習支援員・専科教員の活用）の推進を図りました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立を主とした研修を推進しました。 ・フリー参観週間の年3回の実施。 ・「進んで学習する子」を目指した自主公開研究会を年2回開催（館山小） ・体力の向上を目的とし、毎日の運動を実施（昼休みの5分間運動、朝の持久走） ・小中一貫校を見据え、学力向上共同プロジェクトを継続（神戸小・房南中） ・ボランティア活用の読み聞かせや、図書館職員によるお話し会ブックトークなどの実施 ・地域の特性を生かしたカリキュラムとして、5年総合的学習の時間で「いちご栽培」「米作り」「レタス作り」「なし作り」などを実施しました。 ・市図書館の積極的利用（移動図書館の利用を含む。） <p>【図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館利用案内～小・中・学校の先生へ」を作成配布し、図書館で支援できるメニューを提示し、ニーズに合わせた支援を行いました。 ・併せて図書館見学や職場体験も受け入れ、図書館の利用方法や仕事を知る機会を提供しました。 ・読書を楽しむこと、また図書を使って調べる学習の支援を行いました。 ・学校での読み聞かせ・ブックトーク・図書館に関する授業等 実施回数 4回 ・教諭からの相談に応じ要望や授業に合わせた図書の団体貸し出し 貸出件数 24件 ・移動図書館の巡回を利用して、定期的に小学校へ団体貸し出しを行いました。
<p>成果と課題 〔○成果◆課題〕</p>	<p>【学校教育課・小中学校】</p> <p>○中学校区の小学校が連携し、年3回の漢字・計算検定を行った結果、児童生徒の興味関心が高まり、回数を重ねるごとに平均点が向上しました。</p> <p>○中学校区の小中学校の教員が授業参観を行った結果、互いの学校の実態が分かり、学力向上会議等での意見交換がスムーズになりました。</p> <p>○授業では、少人数指導、習熟度別学習、学習支援員や専科教員等の活用等を行ったことにより児童生徒の興味関心が高まり、知識の定着につながりました。</p> <p>○公開研究会を継続して行うことにより、教師の指導力向上、児童の学習力が高まり、学校全体が学習する雰囲気となり生徒指導上も有効でした（館山小）。</p> <p>○公開研究会の授業づくり、公開時における全学級による授業展開などを通して、日常実践が充実し、子どもの学習力も高まりました。</p> <p>○読書タイムをきっかけに読書習慣が身につく、読書好きの児童生徒が増加しています。</p> <p>○小中共同の研修会を実施し共通理解を図りました（神戸小・房南中）。</p> <p>○地域の人から学ぶ学習により、栽培の苦労や工夫に気づき、地域への関心や地域を愛する心が育ってきています。</p> <p>○市図書館（移動図書館）については、学校や児童が計画的に本を借りることにより、児童に読書習慣が身につくようになってきています。</p> <p>◆学校行事、教科指導での外部講師や学習支援ボランティアとして地域人材を活用する場合、高齢化などにより不足する場合は考えられ、今後は新たな人材の開拓が必要となります。</p> <p>◆個別指導を要する児童が多い中、少人数指導・習熟度別学習などを行</p>

	<p>うための職員数が十分でなく、対応が難しい状況があります。</p> <p>◆主体的に学ぶ姿勢を身につけさせるところまで到達しなかった面があります。</p> <p>◆教科により個別指導を要する生徒が多い中、職員数に限りがあり、少人数指導や習熟度別指導が十分に行えない場合があります。</p> <p>◆生徒の実態把握と分析を詳細に行い、仮説検証していくことが必要です。</p> <p>◆家庭学習については、各家庭に学校の意図を周知することはできていますが、取り組み具合に個人差が見られます。</p> <p>【図書館】</p> <p>○児童と図書との結びつきや学校との連携が図られました。また調べ学習の授業等で必要とする図書の相談や団体貸出を行い、学校の要望に応じることができました。</p> <p>◆学校への支援の継続と、図書館を効果的に利用してもらうために必要な図書と体制を準備する必要があります。</p>
--	---

<p>外国語教育・国際理解教育の推進 【学校教育課】</p>	<p>国際化社会に対応した教育の一環として、小学校の外国語活動及び中学校の外国語授業において、語学指導を行う外国語指導講師(A L T)を最大限活用し、外国語教育及び国際理解教育の充実を図り、国際感覚豊かな児童・生徒の育成に取り組みます。特に、外国語教育については、館山市小学校英語活動年間計画(年間 35 時間)に基づいた取り組みをすることで、外国語教育の充実を図ります。</p> <p>■民間委託による外国語(英語)指導講師配置事業</p> <p>■指導主事による指導及び助言</p>
<p>実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間業務委託により小中学校にA L Tを配置。小学校外国語活動必修化に伴い小学校専属のA L Tを配置し、外国語教育及び国際理解教育の一層の充実を図っています。 ・小学校5・6年ではA L Tを最大限活用し、外国語活動・国際理解教育の充実を図りました。 ・小学校1～4年では、外部講師・学習サポーターによる外国語活動を行いました。 ・姉妹都市ベリンハム市やポートスティーブン市の方々の訪館時に、外国語活動の成果を生かし、昔の遊びを紹介したり、一緒に活動したりして外国人との交流を図りました(西岬小・館山小)。 ・各中学校では、英語スピーチコンテストに向けての講師を活用 ・校外学習(特に修学旅行)等で、これまでの成果を生かし、外国人との簡単な挨拶や会話をして交流しました。
<p>成果と課題 [○成果◆課題]</p>	<p>○小学校外国語活動の充実とともに、中学校においても英語科での英会話力の向上が図られました。</p> <p>○外国の様々な文化を知ることができ、国際理解教育の充実が図られました。</p> <p>○A L Tの指導法が充実しており、児童生徒の外国語(英語)や外国の文化に対する関心の向上とともに外国語学習に対する意欲が向上しました。</p> <p>○英語を使って、体を動かしたり歌ったりして楽しむ児童生徒の姿が見られました。</p> <p>○姉妹都市ベリンハム市やポートスティーブン市の方々の訪館時に一緒に活動して、日本語の話せない外国人に何とか気持ちを伝えようとする態度が数多く見られました。</p>

	◆小学校においては、全職員による研修が必要であり、今後は国際理解教育を推進するための教員研修の検討が必要です。
--	---

情報教育の推進 【教育総務課・学校教育課】	市内の小・中学校におけるコンピュータ機器の整備、学校へのネットワーク構築が完了し、ICT教育環境の整備が図られる中、効率的で適切な情報教育の推進に努めます。 ■パソコン機器等の更新 ■時代の変化に対応したソフトウェアの整備 ■情報教育推進のための教職員研修の実施
実施状況	【教育総務課】 ・小学校2校に電子黒板を追加整備しました。 ・電子黒板の活用を図るため、ICT支援員を配置しました。 ・教科学習ソフトを小学校モデル校2校に導入しました。 【学校教育課・小中学校】 ・ICT支援員の配置、電子黒板の配備により、PC環境の整備の進展・電子黒板やインターネットを活用した授業が展開されました。 ・職員個々への校務用PCの配置整備により、校務処理の効率化や情報の集約・集積だけでなく、授業準備等にも校内LANを活用し、効率的な業務遂行と適切な情報管理が行われました。 ・市主催研修会に多くの職員が参加し、情報活用の仕方や危険性等を研修し、SNS利用を含めた情報モラル教育が実施されました。 ・通信業者の職員を講師として、3・4年、5・6年別に子どもを対象としたIT・携帯に関わる安心安全講座を開催しました。 ・ICT研修会を実施し、教職員の技術向上に努めました
成果と課題 〔○成果◆課題〕	【教育総務課】 ○電子黒板の活用環境が整ってきました。 ◆教科学習ソフトの小学校全校への導入を進めます。 【学校教育課・小中学校】 ○ICT支援員のサポートがあり、職員が気軽に電子黒板を活用した授業を行うことができ、児童生徒の関心意欲が向上しました。また、様々な教科でICT教育環境（インターネット・デジカメ・プロジェクタ・プレゼンテーション等）を活用し、学習の能率化や定着が図られました。 ○ICT支援員により、利用しにくかった機器配置などが整備され、活動し易くなり、職員のPC作業が効率化できました。また、専門的な知識や技術の習得が図られました。 ○PCサーバーを利用することにより、情報の共有・集積が容易になり、また、情報の外部への持出防止に役立ちました。 ○児童生徒が、インターネットによる危険性を早くから自覚することができ、情報モラルの向上を図ることができました。 ◆ICT機器の不具合やメンテナンスへの迅速対応ができる体制づくりが必要です。そのための専門的知識・技能の高いICT支援員の必要性から、今後の継続配置などの更なる充実策を検討する必要があります。 ◆ICT機器の老朽化やネットワークシステムの能力不足、落雷等による災害対応等への対応を検討する必要があります。 ◆電子黒板を日常的に活用できるような環境整備を更に進める必要があります。そのためのデジタル教科書やタブレット端末機の整備充実を検討する必要があります。 ◆ICT機器（特に電子黒板）を利用した授業の相互参観を行い、職員の授業力を更に高める必要があります。

	◆PCサーバーの情報管理を更に徹底する必要があります。
情操教育の推進 【学校教育課】	プロなどによる優れた芸術（音楽）を身近に鑑賞する機会を提供し、児童への情操の涵養を図り、芸術活動への参加の機運を醸成します。 ■館山市音楽鑑賞教室の実施（隔年事業・小学3・4年生対象）
実施状況	・フラメンコ教室、尺八・琴の実演 ・文化庁主催芸術鑑賞教室「沖縄歌舞団」を実施しました ・南総文化ホール事業の演劇ワークショップに応募し、表現力や気分の高揚を図りました。 ・文化祭や予餞会での劇団による劇の鑑賞
成果と課題 【○成果◆課題】	○プロによる優れた演奏等の機会に触れ、児童生徒の情操教育が図られました。 ○鑑賞するだけでなく、実際に踊ったり演奏したりする表現活動を通して芸術に対する児童生徒の興味・関心が高まりました。 ◆日課予定との事業の日程調整が難しい場合があります。 ◆学校内にプロの芸術鑑賞に対応できる施設が不足しています。 ◆費用面での児童生徒（保護者）の負担
福祉教育・環境教育・キャリア教育・食育の推進 【学校教育課・学校給食センター】	「ふれあい体験活動推進事業」を実施し、福祉・環境・ボランティア・社会体験活動を通じて、変化の激しい社会を心豊かに、たくましく生き抜いていくための基盤となる力を身につけた児童生徒の育成に努めます。また、望ましい食習慣や栄養に関する正しい知識を身につけさせるため、学校給食センターの栄養士が各学校に出向き、食に関する指導事業を実施します。 ■中学生社会体験学習「チャレンジ感動 IN 館山」の実施 ■小学生社会体験学習「ゆめ・仕事びったり体験」の実施 ■食に関する指導事業
実施状況	【学校教育課・小中学校】 ・福祉教育・環境教育・キャリア教育・食育の推進は、全ての教育活動を通じて行うこととしています。キャリア教育は、総合的な学習の時間で活動計画を作成、中学校は3日間・小学校は半日の社会体験学習を実施し、児童生徒の勤労観・職業観の向上に努めました。 ・食に関する指導については、給食試食会の実施・保健師や栄養士による食に関する指導事業の実施。生活習慣に関連の『早寝 早起き 朝ごはん』取り組み調査。 給食センターとの連携による食に関する指導の実施・給食時の校内放送による献立と食品の体へのはたらきの紹介。 ヘルスサポーターに代わり、本年度より「館山☆元気サポーター事業」として中学校での食育が実施されています。栄養バランスが整った食事の大切さを学んだり、地域の食材を使った料理、郷土料理の実習を実施したりして、食育を推進しています。 【学校給食センター】 ・各学校において食に関する授業を実施し、食事の重要性や食事のマナーを守ることと楽しく食事をしようとする意欲を持たせる。
成果と課題 【○成果◆課題】	【学校教育課・小中学校】 ○特産である「神戸レタス」の学習を通じて、食に関する関心を高めることができました。 ○栄養士や調理人の方を給食センターから派遣して食育を実施。食べることの意味や栄養について学ぶことができました。実施後は、給食の残

	<p>菜が減りました。</p> <p>○給食を残さず食べるようになっていきます。</p> <p>○栄養バランスの整った食事の重要性の理解や地域食材の活用，郷土料理の実習等による伝統の継承と郷土愛の向上を図りました。</p> <p>○社会体験学習を通して，望ましい職業観，他人に感謝される喜びや存在感，社会性を身に付けることができました。また，地域の教育力の向上や児童生徒理解を促進するうえで多大な効果がありました。</p> <p>◆社会情勢や雇用形態の変化に伴い，受け入れ事業所の減少が見られます。そのため，児童生徒の希望する職種での体験ができなくなりつつあります。</p> <p>【学校給食センター】</p> <p>○心身の成長や健康を保つために必要な栄養や食事のとり方を指導することができました。</p> <p>○食事の重要性や食事の喜び，楽しさを理解することができました。</p>
<p>特別支援教育体制の推進</p> <p>【学校教育課】</p>	<p>個別の指導計画や支援計画の作成，小・中学校に特別支援教育学習支援員を配置するなど，障害のある子どもが，持てる能力を最大限発揮できるよう，乳幼児期から中学校卒業まで一貫した支援を行い，社会的自立・職業的自立を図ります。また，教員の専門性・資質の向上や支援体制の充実を図り，一人ひとりの教育的ニーズに応じた学習支援を行うよう努めます。</p> <p>■学習支援員の適切な配置</p> <p>■保育園・幼稚園段階からの支援計画の作成</p> <p>■専門家チームによる巡回相談の充実</p>
<p>実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育学習支援員による児童生徒への個別対応の充実を図りました。 ・特別支援教育専門家チーム員を学校等に派遣し，個別の指導方法等の充実を図りました。 ・専門家チーム員による巡回指導を行い，幼稚園・こども園・保育園の個別の指導が必要な園児への支援方法について職員に指導し，保育教育の充実を図りました。 ・特別支援アドバイザーを招聘し，個別の指導方法等の充実を図りました。 ・療育関係の講師を招聘したり，「インクルーシブ教育システム」の職員研修を実施するなど，職員の指導力の向上を図りました。 ・保護者や児童生徒のニーズに応じた校内体制の充実と実践を推進しました。 ・校内就学指導委員会の定期的開催による計画的な支援の見直しを行いました。 ・安房特別支援学校との連携を図りました。
<p>成果と課題</p> <p>〔○成果◆課題〕</p>	<p>○特別支援教育専門家チーム員の派遣を積極的に推進し，各園各校の要請に対応しました。教師の指導に関する助言が教育活動に有効でした。</p> <p>○特別支援教育学習支援員の増員と指導力向上を図りました。また，学校では特別支援教育コーディネーターを中心に，週ごとに学習支援員の配置を検討したことで，児童生徒の実態に合わせた支援を行うことができました。</p> <p>○どの児童生徒にも配慮すべき事項があることが明確になり，一斉指導の中でも個別の対応が進められるなど，指導方法が改善されています。</p> <p>○職員研修を実施することにより，児童生徒の障害への理解及び支援の</p>

	<p>在り方を深めることができました。</p> <p>○高校等への進路決定に対する対応が充実してきました。</p> <p>◆特別支援の必要な児童生徒の多様化が見られ、一人一人に即した支援の更なる充実を推進する必要があります。</p> <p>◆国・県において、インクルーシブ教育システムの整備が叫ばれ、各種会議等でも配慮するように指導されていますが、学校現場の体制（職員数・部屋数・専門職等）が追いつかない中で制度が先行しており、対応に苦慮している現状があります。</p> <p>◆インクルーシブ教育システムについて、教職員の理解を更に深めていく必要があります。</p> <p>◆児童生徒の実態等をより詳細につかめるようになってきましたが、家庭の理解についても、より深まるような取組が必要です。</p> <p>◆統一規格による教育計画・支援計画の整備が望まれます。</p> <p>◆幼稚園等と小学校、小学校と中学校との情報共有と連携について、更に深めていく必要があります。</p>
--	---

<p>生活習慣病予防検診事業</p> <p>【教育総務課】</p>	<p>近年増加傾向にある生活習慣病を小児期から予防し、地域の未来を担う子どもたちの健康管理を適正に行うことが求められています。小・中学校で各学年から一つの学年を選び全児童・生徒を対象に採血、血圧測定を行い、保護者に対して検査結果により保健師、栄養士から生活習慣病の食育を含めた予防対策について指導をすることで、心身共に健康な児童・生徒の育成に努めます。</p> <p>■生活習慣病予防検診</p> <p>■検診後の指導</p>
<p>実施状況</p>	<p>・小学校5年生、中学校2年生を対象に検診を実施し、有所見者に対して個別指導を行いました。</p> <p>・「千葉県における小児期肥満の研究」を行っている千葉県立保健医療大学からの依頼で、匿名化したアンケートデータ、検査データを提供し、分析結果の報告を受けました。</p>
<p>成果と課題</p> <p>〔○成果◆課題〕</p>	<p>○有所見者に対して、個別指導をすることにより、生活習慣改善に向けた具体的な取り組みを伝えることができました。</p> <p>○大学へのデータ提供により専門的な意見を伺うことができました。</p>

第3節 教育相談の充実

<p>取り組み方向</p>	<p>・子育てへの悩みや児童生徒の悩みに対する教育相談体制の充実を図ります。</p> <p>・スクールカウンセラー派遣事業等の活用により、教職員の指導との連携を図ります。</p>
---------------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
<p>教育相談体制の充実</p> <p>【学校教育課】</p>	<p>家庭・地域及び各関係機関との緊密な連携により、家庭の教育力を高める学習機会の充実を図ります。また、児童生徒の悩みなどに対する教育相談に関しての研修や研究を進めるとともに、スクールカウンセラーの配置など教育相談体制の充実を図ることで、保護者・児童生徒等の様々な悩みに対する相談体制を確立し、適切な支援と援助を行います。</p> <p>■スクールカウンセラー派遣事業</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ■長欠対策主任研修の実施 ■中学校区生徒指導連絡会による小中学校間の生徒理解の滑らかな接続 ■各関係機関との連携
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー配置校を中心に、市内小中学校の教育相談体制の充実を図りました。 ・中学校区生徒指導連絡会議の開催により小中連携を図りました。 ・長欠対策主任研修を実施し、その解消に努めました。 ・昨年度に続き、市内小中学校の児童生徒を対象に心理テストを実施しました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○スクールカウンセラーは、配置校の児童生徒はもとより要請により未配置校の児童生徒及び保護者との相談を行うことができました。</p> <p>○長欠対策主任の研修は、訪問担当教員や教育事務所の教育相談や長欠担当による講話を依頼し、具体的な対策について研究・協議を行いました。</p> <p>○中学校区生徒指導連絡会議は、定期的な会議となり各学校の生徒指導上の具体的な取り組みを確認し、生徒理解に役立つものとなっています。</p> <p>○今年度より、心理テストの結果に個票が配布され、学級の実態や児童生徒の抱える問題への早期対応とともに、家庭との連携についても役立つものとなりました。</p> <p>◆スクールカウンセラーの勤務日が週1回のため、学校の要望に十分に対応することが困難な場合があります。</p>

第4節 教職員の資質向上

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と確かな専門性に基づく実践的指導力を持つ教員の育成に努めます。 ・研究指定校や教育問題研究会事業等を中心として、質の高い授業づくりに努めます。
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
教職員研修の充実 【学校教育課】	<p>効果的な教育実践が営まれるよう、また、特色ある学校づくりが推進されるよう社会や時代のニーズを踏まえた計画的な教職員の研修・研究体制の確立を図り、教職員の資質、力量の向上に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■研究指定校（園）への支援 ■館山市教育問題研究会 ■人材育成の階層別研修（管理職研修・中堅研修・若手研修） ■人材育成や教育のニーズに合わせた教職員研修の充実 （教務主任研修・生徒指導主任研修・英語主任研修・パソコン研修） ■危機管理意識高揚のための校内研修
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指定校への支援 指導主事の派遣，市内各学校への研究会への参加要請等を行いました。 <p style="text-align: center;"> 県指定 第三中学校，北条小学校 理科の指導等に関する研究協議 実施事業 館野小学校 地域における食育指導 地教連指定 神戸小学校 学校教育課題 算数科 市指定 那古・館野幼稚園 幼稚園教育 館山小学校・神戸小学校 教科用教材ソフト活用推進事業 </p>

	<p>第二中学校・西岬小学校 海洋教育推進指定校 県国公立幼稚園連盟 北条幼稚園 自主公開 館山小学校 国語, 算数, 特別支援教育 授業におけるセルフ授業チェックシートの活用と相互授業参観の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館山市教育問題研究委員会では, 昨年度に引き続き「歴史副読本『さとみ物語』を活用した地域学習における館山市モデルの作成」について研究し, 答申しました。 ・階層別研修 管理職研修会 管理職に必要な学校組織マネジメント 若手中堅リーダー研修会 学習指導, 学級経営, 教師の資質についての講義 ・危機管理マニュアルを更新し, 災害等への対応について校内研修を行っています。 ・不祥事根絶については, 各小中学校に「自己啓発レポートの作成, 活用研修」を義務づけました。 ・夏季ICT研修では, 電子黒板の有効活用について研修しました。 ・危機管理意識高揚のため, 校内研修にロールプレイを取り入れて実施しました。 ・学校問題解決能力の向上に向けて事例研修会を実施しました。
<p>成果と課題 [○成果◆課題]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校内で学年, 教科という組織を中心とした研修を行った結果, 子どもの学習力, 教師の授業力が高まりました。 ○研究指定校への支援については, 各学校の実情に応じて適切な支援を行うことができました。 ○階層別の研修では, それぞれの年代の課題について, 講義だけでなく演習も入れ行うことで, 実践的に学ばせることができました。 ○各学校で, あらゆる危機に対応した危機管理マニュアルの更新を積極的に行い, 併せて, マニュアルに対応した研修も行っていきます。 ○「自己啓発レポート」については, 起こりうる不祥事を職員が予想しシミュレーションするため, 個々の職員への危機意識の高揚に役立っています。 ○校内研修で, 更に伝達研修として受講した研修内容を他の職員に周知しています。 ○職員一人一人のニーズに応じた研修に参加することで, 個々の能力を向上することができています。 ○相互授業参観では, それぞれの良いところを学ぶことができ授業改善につながっています。 ○OJT を生かした授業実践により, 若手職員の指導力向上が図られました。 ○若手教員の校内研修として, 教務主任が講師となり推進し, 校務や教科指導が理解されるようになりました。 ○危機管理意識(不祥事・非常災害・メンタルヘルス)が高まりつつあり, ボトムアップ的な雰囲気が出てきています。 ◆館山市教育問題研究委員会では, モデル化したものをどのように各学校で実践してもらおうかということが課題となっています。 ◆中学校に電子黒板が配置され, 効果的な使用方法について学んでいく必要があります。 ◆階層別研修では, 研修内容に参加者の声を生かすなど, 参加者の実態に合わせた研修を推進する必要があります。

	<p>◆不祥事根絶については、あらゆる機会をとらえ、研修や周知を継続して行う必要があります。</p> <p>◆学級数・職員数が減少していく中で、今後の研究体制の構築が課題です。</p> <p>◆個々が学んできたことを、職員全員の共通知識とすることが課題となっています</p>
--	---

第5節 幼児・児童・生徒の安全確保

取り組み方向	<p>・危機管理対応マニュアルの日常的な見直しと避難訓練の実施及び不審者に対する安全の確保を図ります。</p> <p>・地域ぐるみで幼児・児童・生徒の安全確保を図ります。</p>
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
安全対策の充実 【学校教育課・教育総務課】	<p>危機管理対応マニュアルを適宜見直し、施設の安全・避難経路等の日常的な点検及び職員への意識啓発を行います。子どもが身の回りの危険箇所を把握し、自らの判断で行動できる指導をします。安全対策備品等の買い替えや不審者情報の提供、学校区毎の「見守り活動」を促進し、教育現場における安全性の確保に努めます。</p> <p>■家庭・地域と連携をした避難訓練の推進（地震・津波・火災）</p> <p>■各学校における防災教育の充実</p> <p>■安全マップを活用した指導の充実</p> <p>■安全対策備品の管理・買い替え</p>
実施状況	<p>【学校教育課】</p> <p>・各学校において危機管理マニュアルの見直しを継続して実施しています。</p> <p>・安全主任研修会を実施し、生活安全・交通安全・災害安全について自校の取り組み状況の点検・評価を行いました。</p> <p>・通学路危険箇所については、関係機関との連携を制度化し危険箇所の改善について取り組んでいます。</p> <p>・市内小中学校の避難所開設マニュアルを新たに作成し、各校への周知を図りました。</p> <p>【教育総務課】</p> <p>・電話機のナンバーディスプレイ化により、不審電話対策に取り組んでいます。</p>
成果と課題 【○成果◆課題】	<p>【学校教育課】</p> <p>○災害に関する意識が高まり、危機管理マニュアルの見直しも適宜行われています。</p> <p>○通学路危険箇所については、関係機関との連携強化により実情に応じた改善が図られています。</p> <p>○避難所開設マニュアルの作成により、災害への対応について学校職員の意識が深まりました。</p> <p>◆通学路の安全確保は、児童生徒の交通ルールの指導だけでなく関係機関の協力を得ながら地域住民の交通に関する意識向上を図る必要があります。</p> <p>【教育総務課】</p> <p>○ナンバーディスプレイ化により不審電話対応の利便性が図られていま</p>

	す。
--	----

第6節 学社融合の推進

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を図り，地域の教育力を活かした学校体制づくりと開かれた学校づくりを推進します。 ・地域の教育的資源の活用を図ります。
--------	--

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
学校区におけるコミュニティの形成 【学校教育課】	<p>市民等で組織された学校評議員制度を活用し，地域の教育力を活かします。また，中学校子育てフォーラム，中学校家庭教育講演会を開催するとともに，地域の人材を活用し，地域に根ざした，開かれた学校づくりの確立を図ります。</p> <p>■学校評議員の評価機能をいかした学校運営の充実 ■子育てにかかわるテーマや啓発を目的としたミニ集会の実施</p>
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価を行い，その結果について分析し，保護者・地域へ公表しています。 ・定期的に学校評議員会を開催し，学校関係者評価を行い，学校運営の改善を図っています。 ・学校が開催する行事・授業等において，家庭・地域と連携して取り組んでいます。 ・ホームページやブログ等を活用し，家庭・地域に向けて積極的な情報発信を行っています。 ・子育てをテーマに家庭・地域が参加するミニ集会を各学校で行いました。 ・フリー参観を定期的に開催し，保護者，地域に学校を公開しています。 ・地域学習において，市の機関（博物館等）を幅広く活用しました。 ・お茶の水女子大学との連携により各種事業を開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> お茶の女子大学海洋教育・館山市教育委員会交流事業 夏休み児童生徒の科学論文のための観察実験会（小中学生向け） 館山市沖ノ島の磯の生物の観察採集会（教員向け） ・安心，安全サポーター会議の開催 ・「生活習慣病予防のための食育体験講座」として幼稚園・小学校の保護者を対象としたミニ集会を行いました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○学校評価を行うことで，学校の課題について明らかになり，その結果を公表することで保護者，地域の信頼と協力を得ることに努めています。</p> <p>○子育てをテーマに家庭・地域が参加するミニ集会を各学校で行い，それぞれの立場から活発な意見が出る話し合いとなりました。</p> <p>○ホームページやブログにより積極的な情報発信を行い，多くの閲覧がありました。また，これが学校理解につながっています。</p> <p>○地域学習において，市の機関（博物館等）の見学や，市職員の出前事業など各学校で多くの活用がありました。</p> <p>○お茶の水女子大学との連携により各種事業を開催し，児童生徒，教員の多くの参加がありました。</p> <p>○学校参観（定例・自由）を月1回程度設け，透明性があり開かれた学校づくりを推進することができました。</p> <p>○8月の夕涼みの集いでは施設開放，11月の九重地区文化芸能祭では</p>

	<p>施設開放と児童の参加，同じく11月には，館野九重地区親善バレーボール大会での施設開放，その他，公民館行事との連携により地域住民と児童が触れ合うなど，学校と地域と一緒に活動する機会が多数ありました（九重小）。</p> <p>○除草作業や花壇の手入れ，側溝の清掃，窓ふき等，PTAや学校支援ボランティアの協力を得て行えました。</p> <p>○学校支援ボランティアの方々に部活動指導をしていただき，生徒の技術力向上に役立っています。</p> <p>◆学校評価では，評価を行う際の観点の設定について改善する必要があります。</p> <p>◆学校評価の公表方法について，学校により様々であるため，保護者に理解が得られやすい方法について改善していく必要があります。</p> <p>◆ミニ集会では，特に地域からの参加者が少ないため，周知や要請方法などに工夫が必要です。</p> <p>◆ホームページやブログを利用した情報発信は，簡単に情報発信ができるため，写真や文書などを公開する前に十分な吟味・確認をする必要があります。</p> <p>◆各種団体との連携には窓口となる職員に十分な経験や知識が必要であるため，各学校の専門家の協力が必要です。</p>
<p>特色ある学校づくり 【学校教育課】</p>	<p>地域の自然・歴史・文化を活用し，郷土意識・愛着心を持った児童生徒の育成を図るとともに，地域の人材活用や学校間交流支援事業の実施，総合的な学習等の推進により，地域に根ざした開かれた学校づくりに努めます。</p> <p>■地域素材の教材化</p> <p>■地域人材の活用</p>
<p>実 施 状 況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育問題研究委員会で，「歴史副読本『さとみ物語』を活用した地域学習における館山市モデルの作成」を行い，モデル授業を市内小中学校に公開した。 ・社会科で「自分たちの住んでいるまちの様子」「昔の道具や人々のくらし調べ」「昔から伝わる行事」「館山市の主な産業（農業・工業・水産業）」，生活科・総合的な学習の時間で「昔の子どもの遊びとくらし」などの学習を行いました。 ・市役所・市立博物館への見学や，市職員の出前講座などを利用して地域学習の推進を図りました。 ・地域の老人会の方に昔の遊びを指導してもらい，昔の学校についての話を聞く機会を設けました。 ・専門家を招いての学習（地域の医療機関による講話） ・学校田の活用をし，地場産業としての米づくりの実践体験学習 ・総合的な学習の時間で（2・3年生）「地域が先生・豊かな体験学習」の実施（房南中） ・家庭学習の手引きを配布し，家庭学習習慣作りを図りました。
<p>成果と課題 〔○成果◆課題〕</p>	<p>○社会科・生活科・総合的な学習の時間等において，外部講師を招いた授業を実施することにより，地域への理解を深めることができました。</p> <p>○地域の教材化を行うことにより，児童生徒の興味関心を高めることができました。</p> <p>○命の授業の実施により，一人一人がいかに大切な存在なのかを実感することができました。</p> <p>○市役所・市立博物館の見学については，各学校が積極的に利用してい</p>

	<p>ます。</p> <p>○地域の方々とのふれ合いを通じて、子ども達の思いやりの心など情操面を育てることができました。</p> <p>○鞆鼓舞や地域特産のカナリアナスについて地域の方々の協力を得て授業を行うことができました（神余小）。</p> <p>○地域と連携した教育活動は、地域の方々への情報発信の場になっています。</p> <p>○宿題忘れ0（ゼロ）運動により、家庭学習習慣が身につけてきています。</p> <p>◆地域人材が高齢化しており、新たな人材を探す必要があります。</p> <p>◆施設見学・講師の派遣について、学校への情報提供を適切に行っていく必要があります。</p> <p>◆校外学習等の場合の児童生徒の安全確保が課題です。</p>
--	---

第7節 教育環境・就学環境の整備

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護受給世帯等に対し、就学費を援助します。 ・遠距離通学者の負担軽減を図ります。 ・優秀な人材育成のため、就学資金を援助します。 ・教育環境の是正を図るため、「館山市学校再編基本指針」に基づき協議を進めていきます。
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画			
就学費援助事業 【教育総務課】	生活保護受給世帯等で、経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対し、学用品や給食費等学校生活に必要な経費を援助することにより、教育の機会均等化を図り、義務教育を受ける権利を保障します。 ■就学費援助(学用品費・新入学学用品費・通学用品費・修学旅行費・校外活動費・給食費・体育実技用具費)			
実施状況	要保護及び準要保護児童生徒に対し就学援助費（学用品費，校外活動費，医療費，学校給食費等）を支給しました。 【平成26年12月末現在】			
		要保護	準要保護	支給額
	小学校	25人	158人	7,534,912円
	中学校	12人	110人	9,414,701円
成果と課題 【○成果◆課題】	○経済的な理由で就学が困難な小中学校の児童・生徒の保護者の負担が減り、教育の機会均等が保てました。 ◆今後も就学援助制度の周知に努めます。			

スクールバス運行事業 【教育総務課】	学校統合により遠距離通学となる児童生徒の安全な通学手段の確保と保護者負担の軽減を図るため、スクールバスを運行します。 ■スクールバス運行委託事業		
実施状況	学校統合により、遠距離通学となった地区のうち、路線バスの無い地区や路線バスの不便な地区にスクールバスを運行しました。 【平成26年12月末現在】		
	対象校	対象人数	運行日数
	畑地区(二中・豊房小)	2人(小1・中1)	149日
	神余地区(二中)	5人	149日

	九重地区（三中）	43人	148日
成果と課題 〔○成果◆課題〕	○路線バスの不便な地区について，通学手段を確保できました。 ◆児童生徒数の減少による地区スクールバスの運行方法について検討する必要があります。		

遠距離通学費補助事業 【教育総務課】	学校統合により遠距離通学となる児童生徒を対象に，通学費の経済的負担を軽減するため，補助を行います。 ■遠距離通学費補助金支給		
実施状況	学校統合により遠距離通学となった児童・生徒の通学費を補助しました。 【平成26年12月末現在】		
	対象校	対象人数	補助金交付額
	神戸小	10人	0円
	西岬小	33人	331,200円
	第二中	63人	3,439,260円
	第三中	15人	0円
成果と課題 〔○成果◆課題〕	○学校統合により，遠距離通学となった児童・生徒の保護者負担が軽減されました。 ◆房南地区小中一貫校開校に伴い，スクールバス運行も含めて全体的に検討していく必要があります。		

ふるさと創生奨学資金貸付事業 【教育総務課】	経済的理由により，高等学校・大学などに就学することが困難な者に対し，就学の機会を失することなく，地域の将来を担う有為な人材を育成するため，奨学資金を貸し付けます。 ■ふるさと創生奨学資金貸付事業		
実施状況	ふるさと創生奨学資金の貸付申請があった者に，入学支度金及び修学金の貸付を行いました。 【平成26年12月末現在】		
	対象	対象人数	金額
	貸付対象者	17人	2,780,000円
成果と課題 〔○成果◆課題〕	○経済的に就学が困難な者に対し貸付を行うことによって，就学の機会が確保されました。 ◆今後もふるさと創生奨学資金貸付事業の周知に努めます。		

学校規模における教育環境の是正 【学校教育課】	今後も減少傾向が続くと予想される小学校の児童数を踏まえ，「館山市学校再編基本指針」に基づき，学校の主役である子どもたちの適切な学校環境の構築を推進していきます。 ■複式学級編成校の解消並びに小中一貫校実現についての検討		
実施状況	房南地区小中一貫校開校に向けての協議継続 新校舎基本設計（素案）説明会の実施		
成果と課題 〔○成果◆課題〕	○房南地区小中一貫校検討委員会内に個別事項を検討する検討部会が設置され，継続して検討を重ねています。 ○検討委員会向けに新校舎基本設計（素案）についての説明会を開催しました。 ◆開校に向けて，平成28年度には小中学校において大きな行事を合同で試行する予定とし，平成27年度から準備に入りますが，行事試行により新たな課題の発見に繋がるものと考えています。 ◆通学路整備やスクールバス，神戸小学校跡地利用など，開校までに課題が解消できるよう検討委員会で協議を継続します。		

第8節 学校（園）・給食センターの施設整備

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・教育施設の耐震性の確保に努めるとともに、安全で快適な学習環境の整備に努めます。 ・老朽化,あるいは不足している学校用備品等の計画的な整備に努めます。 ・教育施設を社会体育活動や地域活動の場として利活用します。
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
学校（園）施設の整備 【教育総務課】	<p>小・中学校・幼稚園の施設の安全性を確保するため、耐震改修・老朽化施設改修などを行い、安全で安心な学校施設の整備と学習環境の向上に努めます。</p> <p>■耐震診断事業 北条幼稚園, 豊房幼稚園</p> <p>■耐震改修事業 校舎：北条小学校, 館山小学校, 館野小学校・幼稚園, 西岬小学校 体育館：館山小学校, 九重小学校, 豊房小学校</p> <p>■小中一貫事業 房南学区</p>
実施状況	<p>■耐震診断事業 神戸小学校校舎, 第三中学校校舎</p> <p>■耐震改修事業 (工事及び工事監理) 校舎：北条小学校(第Ⅲ期)低学年棟, 館山小学校北棟, 豊房幼稚園 体育館：館山小学校, 豊房小学校</p> <p>■小中一貫事業 房南地区(設計業務)</p> <p>■幼稚園建設事業 北条幼稚園(設計業務)</p>
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○学校施設の安全性を確保し、学習環境が向上しました。</p> <p>◆耐震診断判定の結果、新たに耐震改修を要する建物が判明し、耐震改修設計及び工事等の対応が必要となりました。(神戸小学校校舎, 第三中学校校舎)</p> <p>◆国が目標としている平成27年度末耐震化率100%の実施が困難です。</p>

学校用備品の整備 【教育総務課】	<p>老朽化した学校用備品の更新,必要な教材の購入を行い、快適な学習環境と教育効果の向上を図ります。</p> <p>■基準耐久年数を超えた備品の廃棄・買い替え</p> <p>■学校間での備品の共有化・貸し出し</p> <p>■防災カーテンの整備</p> <p>■消火器の詰め替え,買い替え</p> <p>■学校図書の本整備</p>
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・防災カーテンの整備を行いました。 ・老朽化した備品の買い替えを行いました。 ・備品台帳管理システムを整備し、全校で備品情報を共有できるようにしました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○備品システムの整備により、備品管理事務の効率化が図られました。</p>

学校給食センターの整備・運営 【学校給食センター】	<p>安全かつ適正な給食を提供するとともに、学校給食における地産地消を推進するため、新たな給食センターの建設に向けた取組を推進します。また、老朽化している現有施設について、適切な施設保全に努めます。さらに、委託業者と連携し、提供する給食の質の向上に努めつつ運営の合理化を推進します。</p> <p>■施設整備計画の策定</p> <p>■新給食センターの建設(H30 稼働)</p>
------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現有施設・備品の適正な保全 ■ 地域食材の活用
実 施 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設及び設備の状態を把握し、新センター稼働までに必要な修繕を行い、現状の施設及び設備の適正な管理に努めました。 ・ 新センターの建設に向け、建設用地を選定し早期稼働を目指すため、関係機関と協議を行いました。 ・ 館山市で収穫される農産物を学校給食において提供しました。
成 果 と 課 題 〔○成果◆課題〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽した施設及び設備を稼働休止することなく安全な給食を提供することができました。 ○ 新センター建設に向け平成30年度稼働を目標に、基本計画・基本設計業務を委託しました。 ○ 本年度は1品目（レタス）を提供し、地元食材をアピールすることができました。 ◆ 現在の施設での稼働では安全かつ安定した学校給食の提供が難しいことから、早々に新センター稼働に向けた準備を進めなければなりません。 ◆ 建設用地の確定に向け、建築基準法の課題を解決しなければならず、引き続き関係機関と協議を進めなければなりません。 ◆ 大量の食材を使用する学校給食において、地場産物の使用を促進するためには、計画的な生産体制及び効率的な流通体制を構築する必要があります。

Ⅱ スポーツ・レクリエーション活動の推進

第1節 生涯スポーツの推進

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室の開催，伝統あるスポーツイベントの継続やマリンスポーツなどの館山の自然を活用したスポーツの普及に努めます。 ・市民スポーツ・レクリエーション月間の事業を充実し，生涯スポーツを推進します。 ・総合型地域スポーツクラブの運営を支援します。 ・小・中学校の体育施設を開放し，地域のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として有効活用します。
--------	--

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
総合型地域スポーツクラブ育成支援事業 【スポーツ課】	<p>「館山ファミリースポーツクラブ“わかしお”」のPR活動や会員の増加を図るなど，自主的運営に向けた体制づくりをサポートします。</p> <p>■教室数 21／会員数 288 H24.2.1 現在</p>
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・館山ファミリースポーツクラブは創立8年を迎え，会員総数 229 名（平成 26 年 12 月現在）定期教室数 16 種目，スタッフ約 60 名で活動を行ってきました。 ・市は広報や会場の提供に務めました。 ・スポーツ教室の他にもクッキング教室やスポーツ交流イベント，県外へのハイキング等を開催し，地域及び人材を活用した魅力ある活動の実施に務めました。 ・クラブとして自主運営に向けて t o t o の助成金の申請を行いました。 ・ファミリースポーツクラブの中には，日本体育協会アシスタントマネージャー，千葉県公認スポーツリーダーの資格を取得した指導者も生まれ，クラブ内で自主的な指導者の育成に向けた活動が進められました。
成果と課題 【○成果◆課題】	<p>○26 年度は，事務局員が会議やイベントの運営，会計事務，会員募集については自主的に取り組めるようになりました。</p> <p>◆年々運営費が減少してきていることが課題となっています。各種種目の充実した活動ができるように環境を整えていく必要もあることから，t o t o の助成金の申請に向けて準備をしてきました。日本体育協会アシスタントマネージャーの実績がないため今年度は助成を受けることができませんでした。来年度は今年度の問題点を改善して申請するための準備を進めていきます。</p>

第2節 スポーツ交流の推進

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・既存スポーツイベントの充実を図るとともに，国際的・全国的なスポーツイベントの誘致・開催やマリンスポーツ及びビーチを利用したスポーツの普及・情報発信に努めます。 ・プロスポーツチームのキャンプを積極的に誘致し，観戦の楽しみを通じたスポーツ人口の拡大を図るとともに，観光関連産業との連携による交流人口の拡大を図ります。
--------	---

館山若潮マラソン大会運営委託事業	南房総の一大イベントとして定着した本大会を手作り市民マラソン大会の基本的なスタイルを維持しながら，さらに大会の知名度アップや内容の
------------------	---

【スポーツ課】	充実に努めます。
実施状況	参加者が安心安全に快適な環境で大会に参加できるよう安全対策強化及び環境改善に努めました。 ≪安全対策≫ ・交通規制区の新聞折込みや交通規制告知看板の増設 ・警備員増員 ・医師で組織する日医ジョガーズへのランニングドクター依頼 ≪環境整備≫ ・仮設トイレ等増設 ≪その他≫ ・当日完走証に中間点タイムの記載追加
成果と課題 〔○成果◆課題〕	○前年度の課題解消・軽減に努め、大会の魅力向上が図られました。 エントリー数：フル7,581人、10km2,772人、ファミリー1,387人、計11,740人 ◆交通渋滞について、交通規制や迂回誘導の見直しを図る必要があります。 ◆常に参加者等のニーズを捉え、環境改善などに努める必要があります。

第3節 スポーツ団体・指導者の育成

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ団体への支援を継続します。 ・スポーツ指導者の資質向上を図るため、研修会への参加を支援します。 ・小・中学校の体育振興を図ります。
--------	--

小・中学校体育振興委託事業 【学校教育課】	各種目の大会・講習会の開催や、県中学校総合体育大会や新人大会への選手の派遣など、館山市小中学校体育振興会に体育振興強化関連の事業を委託し、児童生徒の体力・技術力の向上と青少年の健全育成に努めます。 ■小・中学校体育振興委託
実施状況	館山市小中学校体育振興会に委託することにより、児童生徒の体育振興を目的として、主に以下の事業を行いました。 ① 小学校体操教室 ② 小学校陸上競技大会 ③ 千葉県総合体育大会参加 ④ 千葉県中学校新人体育大会参加
成果と課題 〔○成果◆課題〕	○小中学生の体力、競技力の向上 ◆少子化に伴い、学校活動において団体競技を実施することが難しくなっている現状があります。(部活動の維持、体育教科での団体競技の実施等)

第4節 スポーツ施設の整備

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・市民運動場の野球場やテニスコートなどの修繕を計画的に実施し、利用者の利便性の向上に努めます。 ・温水プールや50mプールの修繕や維持管理を適正に行い、施設の延命化に努めます。 ・市民体育館の耐震補強工事を実施し、利用者の安全性の確保を図ります。 ・出野尾多目的広場は、冬芝の育成を継続するとともに、利用者の利便性の向上に努めます。
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
スポーツ施設の整備 【スポーツ課】	<p>市民運動場やプール，体育館など，既存のスポーツ施設の適正な維持管理に努め，利用者の利便性，安全性の確保を図ります。</p> <p>■市民運動場テニスコート防球ネット改修事業 ■市民体育館耐震補強事業 など</p>
実施状況	<p>・社会体育施設の維持管理のため，市民運動場については，テニスコート整備のためのコートローラーを新たに購入しました。市民体育館については，バスケットボールのルール変更に伴い，バスケットボールコートラインの引換工事を行いました。温水プールについては，プール内の清掃のためのプールロボットを新たに購入するなどし，施設の適正な維持管理に努めました。</p>
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○各社会体育施設の整備や修繕，適切な維持管理を行うことで，既存施設の利用者の利便性の向上や安全性の確保と延命が図られました。</p> <p>◆今後も各施設の安全性と利便性の向上を図っていくため，財政状況に配慮しつつ計画的な改修・修繕・整備を行う必要があります。</p> <p>特に，市民体育館については，平成23年度に耐震診断を実施した結果，耐震改修を行う必要性があるため，今後，耐震改修事業として，耐震診断判定業務，実施設計業務，耐震改修判定業務，耐震改修工事等を「館山市耐震改修促進計画」に基づき，財政状況や緊急性などの優先順位を踏まえて計画的に行う必要があります。</p>

Ⅲ 生涯学習の推進

第1節 生涯学習推進体制の整備充実

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や市民と連携し、さまざまな媒体を活用した生涯学習情報の提供や講座の開催に努めます。 ・地域人材の活用による各種ボランティア制度の拡充に努めます。 ・地域で子どもを育てる力を向上させるため、社会教育団体の育成や自主的な活動を支援し、社会教育団体を核とした地域教育力の向上を目指します。 ・市民の自主的なサークル活動を積極的に支援します。 ・時代や利用者の多様なニーズに対応した蔵書構成やサービスを提供するため、図書館の一層の整備充実を図ります。
--------	--

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
生涯学習ボランティア制度の充実 【生涯学習課・博物館】	<p>地域人材の活用による学校支援（マイスクール）ボランティアや生涯学習ボランティア、ミュージアムサポーター制度、出前講座を拡充し、学社融合や博物館事業の充実を図るとともに、自主的な活動による市民の自己表現の場と生涯学習活動の場の提供に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■マイスクールボランティア事業の推進 ■出前講座の拡充 ■展示案内・資料調査・資料整理などミュージアムサポーターの活動内容の拡充 ■市民ギャラリーの開設
実施状況	<p>【博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の普及活動をサポートするミュージアムサポーター「絵図士」が、館山市内及び安房地域に所在する歴史情報を中心に調査し、解説付きの文化財マップを作成しています。絵図士 19 名。マップ 2 種類製作中。 ・ミュージアムサポーター「甲冑士」が、歴史教室「甲冑を着よう」において、レプリカ甲冑 2 領を用いて希望者への体験着用を行いました。甲冑士 22 名。 <p>※教室開催日：毎週日曜日・祝日 午前 10 時 30 分～午後 3 時 66 回実施、のべ 740 人体験（1 日平均約 11 人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムサポーターの養成講座を開催しました。 絵図士養成講座 参加者 11 人 甲冑士養成講座 参加者 3 人 ・安房学講座を、市民ボランティアを中心とする安房学講座実行委員会によって運営し、安房の歴史文化や房総の海と生活についての情報を提供する機会をつくりました。実行委員 9 名、のべ 479 人参加（全 8 回）。 ・市民ギャラリーは効率的な運営のため、渚の駅を管理する商工観光課に移管しました。
成果と課題 【○成果◆課題】	<p>【博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財マップや教室・講座はいずれも利用者の満足度が高く、来館者が地域の歴史や文化に興味を持つ機会になっています。ボランティアにとっても、活動への評価がマップの利用や参加者の感謝など、目に見えるかたちで返ってくることから、やりがい生まれ、学びを社会に還元するという生涯学習を実践しています。 ○ミュージアムサポーターの養成講座実施により、絵図士 5 名、甲冑士 3 名が新たに加わりました。 ◆いずれのボランティアも参加者が固定化しており、新しい人材の育成

	が課題となっています。
図書館体制の整備 充実 【図書館】	<p>多様化・高度化する利用者のニーズに応じた資料を収集し、蔵書構成の充実を図るとともに、課題を解決するための調査研究支援(レファレンス)、積極的な情報提供に努めます。さらに、開館時間の検討や住民ニーズの調査分析を行い、図書館サービスの向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■図書館資料の収集及び提供 ■情報サービスの充実 ■移動図書館車の運行
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに応じた資料を購入や寄贈で受け入れ、貸し出しを行いました。調べ物や調査研究についての相談や質問に応じ(レファレンス)、図書や資料による情報を提供することで支援を行いました。 (平成27年1月末現在) ・蔵書点数 148,304点(図書・雑誌・視聴覚資料) うち郷土資料蔵書点数 6,468点 ・貸出点数 120,788点(個人貸出・団体貸出) ・移動図書館巡回日数 64日 ・移動図書館巡回ステーション 30箇所 ・毎週木曜日午後8時まで開館しました。
成果と課題 [○成果◆課題]	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者のニーズに対応し、図書館サービスの向上が図られました。 ◆資料の収集を継続し、利用者のニーズに応じることが必要となります。夜間開館は利用者のニーズを把握し、経費も考慮して実施日数を検討する必要があります。

第2節 生涯学習機会の充実

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな地域資源を活用し、有益な資料・情報や多彩な学習機会を提供することで、市民の自主的な学習活動を支援します。 ・学習成果が社会参加活動のきっかけとなるよう、現代的課題を取り入れた講座を企画します。 ・「環境」・「観光」・「まちづくり」など市が取り組む行政課題、各種施策について、市民に広く理解を図る役割となる講座を開催します。 ・市民の自己実現の確立、地域活動への参画、また、地域コミュニティの醸成を図るため、幅広い年齢層に対応した、誰もが参加しやすい生涯学習講座の開催を推進します。 ・館山の歴史・文化の情報発信拠点として、博物館の学習、施設機能の充実を図ります。 ・旧県立安房博物館(現博物館分館)の移譲を受け、観光的な視点からの事業展開や来訪者などの交流人口の拡大に努めます。 ・博物館の豊富な資料の有効活用を図り、内外に向けた情報発信機能を強化します。 ・「ふるさと」を基本テーマに、歴史・文化、生活など柔軟な視点から地域をとらえた、魅力ある各種講座を開催し、地域への愛着心の醸成やまちづくり活動に参画する人材の発掘も目指します。 ・博物館、図書館及び公民館の連携を図り、総合的なふるさと学習を推進します。 ・市民の優品鑑賞の機会を提供するため、文化庁・千葉県などと連携し、展覧会・講演会・講座等の充実に取り組みます。
--------	--

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
生涯学習講座・教室の開催 【生涯学習課・中央公民館】	<p>市民一人ひとりが生きがいを持ち、健康で充実した人生を過ごせるよう、多彩な学習機会を提供するとともに、地域への関心、まちづくりへの関心がより高まるよう継続して開催していきます。</p> <p>■出前講座の拡充 ■大学等と連携した「たてやまオープンカレッジ」等の開催 ■11公民館における各種教養・趣味的講座の開催</p>
実施状況	<p>【生涯学習課】 市職員、市民が講師となり、各団体の要請に応じて、学習活動に協力する出前講座を実施しました。 (平成26年度 68講座 1,928人利用)</p> <p>【中央公民館】 ・「たてやまオープンカレッジ」開催(年5回)[143人] ・中央・地区公民館で各種講座の開催</p>
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>【生涯学習課】 ○市民の自主的な学習活動の支援に繋がっていると同時に、市の施策などを市民に周知する機会となっています。 ○講師として登録した知識や経験を持つ市民が活躍する場が提供できています。 ○健康、介護等の関心の高まりから、介護施設等から健康・福祉に関する講師派遣依頼も増加しています。高齢化が進む中、地域全体で福祉施策を考える一助となっていると考えられます。 ◆依頼される内容が特定の講座に集中する傾向があり、登録された市民講師の利用実績に偏りがあるため、登録講師の利用促進に繋がるよう事業の周知を継続的に行っていく必要があります。</p> <p>【中央公民館】 ○中央学院大学との共同開催によるたてやまオープンカレッジは、受講者のアンケート結果などにも配慮し、講義テーマを検討していただき、受講者の教養の向上に寄与しています。 ◆中央学院大学の学部は法学部と商学部であるため、受講者からの希望に応えられないテーマもあり、課題となっています。</p>
展覧会・講演会・講座等の開催 【博物館】	<p>優れた歴史・文化遺産の展示・公開や、講演会・講座等教育普及事業の拡充を図ることにより、郷土を知る手掛かりを提供し、市民の歴史への興味関心に応えるとともに、観光拠点としての城山公園・渚の駅にある博物館の特色を活かした事業展開や観光客誘致にも取り組みます。(入館目標者数：70,000人)</p> <p>■博物館3館のテーマを活かした常設展示・講座の開催 ■館山・安房をテーマにした特別展・講座の開催 ■市内の旧町村を紹介する地区展の開催 ■文化施設をつなぐ動線の開発</p>
実施状況	<p>地域をテーマにした特別展・講座・教室を開催しました。</p> <p>・常設展示 (本館)館山の歴史と民俗 (分館)房総半島の海と生活 (館山城)八犬伝の世界</p> <p>・特別展 里見氏安房国替400年特別展第I期 「里見氏の遺産・城下町館山ー東京湾の湊町ー」</p>

	<p>平成 26 年 9 月 6 日(土)～10 月 19 日(日) 期間中入館者数 6,729 人 里見氏と館山という町の関連を明らかにするとともに、豊臣秀吉・徳川家康に仕えた館山城主里見義康・忠義父子の時代を中心に、湊機能とともに館山城下町が成立していく過程を追い、安房の地に果たした里見氏の役割を紹介しました。</p> <p>・特別展 里見氏安房国替 400 年特別展第Ⅱ期「里見氏の遺産・古文書」 平成 27 年 2 月 14 日(土)～3 月 22 日(日) 期間中入館者数 6,521 人 里見氏が安房を離れて 400 年となる節目に当たり、博物館が収集してきた里見氏に関する古文書を通して、里見氏と安房の人々がどのように関わったのかを紹介しました。</p> <p>・地区展 新・地区展「北条」 平成 26 年 11 月 1 日(土)～12 月 14 日(日) 期間中入館者数 6,397 人</p> <p>・主な講座の開催状況 「古文書を読んでみよう」 3 クラス各 5 回 のべ 518 人参加 安房地域で作成された江戸時代の古文書をテキストとして、くずし字の読み方と地域の歴史を学ぶ初心者向け講座を開講しました。 「わたしの町の歴史探訪—北条—」 平成 26 年 11 月 9 日(日) 41 人参加 新・地区展の関連事業として開催。手作りのイラストマップを片手に、貴重な石造物が多く残る金台寺や、新宿の鎮守として信仰を集める神明神社、古い商家の残る長須賀の街並みなど、南町・新宿・長須賀の寺社や史跡を巡りました。 「わたしの町の歴史探訪—館山城下町—」 平成 27 年 3 月 1 日(日) 36 人参加</p> <p>・本館・館山城年間入館者数 65,970 人</p>
<p>成果と課題 〔○成果◆課題〕</p>	<p>○常設展示に加え特別展、地区展、講座等を開催することにより歴史と文化を見直す機会となりました。</p> <p>◆講座の参加者が固定化しているのもっと幅広い対象者の興味を向かせる工夫が必要です。</p> <p>◆博物館として小学生向けの講座は実施せず、今後、生涯学習課、図書館、中央公民館と連携して小学生向け事業を展開していくよう協議を進めています。</p>
<p>郷土に関する講座の充実 【図書館・中央公民館】</p>	<p>一人ひとりが地域の魅力を十分に認識し、次代を担う子どもたちに地域の魅力を伝え、地域に対する誇りや愛着心を育む場として定期的に開催します。地域で育まれてきた歴史、豊かな自然、人から人へ語り継がれている生活をテーマにした「ふるさと講座」や、「安房地区公民館連携講座」などの開催を通じて、地域活動への誘引、地域への帰属意識や愛着心を育み、まちづくりに参画する人材の発掘も目指します。</p> <p>■講座・展示への図書館資料の貸出・提供</p> <p>■「ふるさと講座」の開催</p> <p>■安房地区公民館連携講座「見たり・聞いたり 安房の国」の開催</p>
<p>実施状況</p>	<p>【中央公民館】</p> <p>・「ふるさと講座」開催(年 8 回) [418 人]</p> <p>・「安房地区公民館連携講座」開催(年 4 回) [354 人(内館山市民 94 人)]</p>
<p>成果と課題 〔○成果◆課題〕</p>	<p>【中央公民館】</p> <p>○「安房地区公民館連携講座」は安房の 3 市 1 町の公民館が連携し、開催している講座ですが、常に募集人員を超える参加申込のある人気の講座と</p>

	<p>なっており、安房の各地域の歴史、文化、自然を学ぶ機会や、参加者同士が交流を深める場として、開催することができました。</p> <p>◆「安房地区公民館連携講座」は各市町、年1回ずつ主催することとなっていますが、平成21年度から実施しているため、テーマの選定に苦勞している市町が出始めているため、今後、関係市町で協議し方向性を決めていく必要があります。</p>
--	--

第3節 青少年の生きる力を育む体験活動の充実

<p>取り組み方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域青少年育成活動を支援するとともに、学校・家庭・地域・関係団体との連携を図り、青少年指導者の育成に努めます。 ・青少年活動の充実を図るため、子どもたちの「生きる力」の醸成やふるさと学習を推進します。 ・児童の健康増進に寄与し、コミュニケーションを図る空間としての安全・安心な児童遊園の維持管理等に努めます。 ・市民も一体となって新成人を祝う機会となるよう、また、生まれ育った「ふるさと館山」の魅力を再認識し、将来の館山を担う人材の確保につながるように、成人式の内容を検討します。 ・小学校の施設を利用して、地域の方々の参画を得ながら、子どもたちが勉強やスポーツ・文化活動・遊びを体験する放課後子ども教室を実施し、豊かな体験の場作りを推進します。 ・子どもたちが自分たちの住んでいる「ふるさと館山」の自然や歴史・文化を通じて、郷土を愛する心を育むための体験活動を推進します。 ・家庭教育力の向上や、育児不安・子育ての孤立感の軽減を図るため、家庭教育事業を推進します。
---------------	--

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
<p>青少年健全育成体制の充実 【生涯学習課】</p>	<p>次代を担う青少年の健全育成のため、青少年健全育成団体及び学校、家庭、地域との連携を図り、その活動を支援します。また、青少年相談員の各種活動を通じ、地区の大人とのふれあいや地域間交流の場の提供に努めます。</p> <p>■青少年相談員連絡協議会への支援 ■青少年球技大会・親子写生大会の開催</p>
<p>実施状況</p>	<p>館山市青少年相談員連絡協議会が行う市内10地区または市全体の青少年を対象とした事業に対し、補助を行いました。また、次期相談員の委嘱にあたり、各地区の適正な相談員定数について、検討を進めているとともに、少子化の影響を受け参加者が少なくなっている協議会の事業について、役員会を中心に見直しを行っています。</p>
<p>成果と課題 【○成果◆課題】</p>	<p>○各地区で実施される青少年を対象とした事業、連絡協議会で実施する市全体の青少年対象事業を通じ、地域の大人や異学年間との交流、様々な体験機会を提供することができました。</p> <p>○少子化に対応した青少年相談員の適正定数や事業の見直しを検討する過程で、相談員自らの問題として取り組みがなされ、常に問題意識を持ちながら取り組まれるようになりました。</p> <p>◆少子化、子どもたちの活動の多様化により、実施事業への参加が減少しています。</p> <p>◆同じ子どもを対象として活動を行う子ども会、社会教育関係団体等と</p>

	の連携が必要です。
児童遊園の整備 【生涯学習課】	児童遊園に設置している遊具の計画的な保守点検及び修繕等を行い、安全性を確保し、児童に安全・安心な遊び場を提供します。また、地域の実情を踏まえたうえで、児童遊園の新設・統合・廃止を検討します。 ■児童遊園遊具の維持管理 ■児童遊園の新設・統合・廃止の検討
実 施 状 況	市内18カ所の児童遊園のうち、16カ所に設置されている遊具について市職員により定期点検を行うとともに、老朽した遊具の修繕及び更新等を行いました。また、平成26年度は専門業者による点検（5年ごとに実施）を実施しました。
成 果 と 課 題 【○成果◆課題】	○定期点検、業者による点検結果を踏まえ、遊具の修繕、更新等を行うことにより、安全、安心な遊び場が提供できています。 ◆遊具が老朽化していること、また、専門業者による点検は5年ごとであり、日常点検は市職員のみで行っていることから、安全な環境を提供していくための検討が必要です。 ◆児童の減少、都市公園や学校施設の利用なども踏まえ、児童遊園の再編についての継続的な検討が必要です。
放課後子ども教室の推進 【生涯学習課・中央公民館】	子どもたちが放課後や週末に地域の人や異学年とのかかわりの中で、社会性や規範意識などを身に付け、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、勉強やスポーツ・文化活動・遊びを体験する放課後子ども教室を実施します。 ■市内全小学校での教室開催 ■夏休み子ども教室、囲碁・将棋大会の開催
実 施 状 況	市内10小学区中、8小学校区で放課後子ども教室を開設しています。また、未開設校2校のうち、平成27年度からの新規開設（1校）を目指し、学校・地域と協議を行っています。
成 果 と 課 題 【○成果◆課題】	○子どもたちへの放課後や週末の居場所作りを行うことができています。 ○地域住民の協力による多様な学習機会を通じ、地域の大人や異学年間との交流、様々な体験機会を提供することができました。 ○地域住民に対して、子どもたちとの関わりを持つ機会が提供できているとともに、地域で子どもを守り・育てる意識の醸成が図られています。 ◆スタッフ不足、児童の対応方法などから、スタッフの負担感が大きくなっているため、スタッフや研修機会の確保が必要です。 ◆学童保育との連携、また、土曜日を活用した体験学習（土曜スクール）の開設についても、併せて検討を進める必要があります。
ふるさと体験活動の推進 【生涯学習課・中央公民館】	子どもたちが、自分たちの住んでいる「ふるさと館山」の自然・歴史・文化などの体験活動を通して学び、郷土を愛する心を育めるよう、教育機関・NPOや市民ボランティアと連携して「たてやまワクワク探検隊」を開催するなど、魅力ある地域資源を活用した事業の展開に努めます。 ■「たてやまいいとこ体験教室」の開催 ■昭和女子大と連携し、夏休みの学習「ワクワク・ウキウキ教室」を開催 ■子ども市民大学の充実 ■親子自然体験講座「たてやまワクワク探検隊」の開催 ■沖ノ島探検隊の開催
実 施 状 況	【生涯学習課】 昭和女子大学と連携し、市内のセミナーハウスを会場に大学生が講師と

	<p>なり市内児童に勉強を教える「夏休みワクワク・ウキウキ教室」を開催しました。</p> <p>【中央公民館】</p> <p>「たてやまワクワク探検隊」(3回) [62人]</p> <p>「沖ノ島探検隊」(2回) [40人]</p> <p>「夏休みおもしろ教室(星空観察, 安房高化学部探検隊, 親子クッキング, こども将棋大会)」(全4回) [163人]</p> <p>「大学ジュニアサイエンス」[17人]</p> <p>「将棋道場」(第2, 4土曜日, 24回) [200人]</p>
<p>成果と課題 [○成果◆課題]</p>	<p>【生涯学習課】</p> <p>○子どもたちが大学生と交流できる体験を通じて, 将来を考える有意義な機会を提供できました。</p> <p>○教員等を目指す大学生にとっても, 実際に子どもたちを指導できる貴重な機会であるため, 今後の活動に役立っているとの感想を得ています。</p> <p>◆地域資源の一つである市内の大学関連施設との連携により, 子どもたちに対し, ふるさとを考え, また, 地域への愛情を醸成するきっかけとなるような, 体験機会の提供など継続した取組が必要です。</p> <p>【中央公民館】</p> <p>○多様な学習機会を提供することで, 自らの体験によるふるさとを学ぶ機会として, また, 学校の枠組みや学年を超えて, 参加者同士が交流する機会を提供することができました。</p> <p>◆今後も, 大学やNPO, 関係機関と連携し, 新たな体験メニューを企画して行くと共に, 子どもたちが「ふるさと館山」の魅力を感じ, 郷土愛を醸成するきっかけとなるよう, 継続的な取組が必要です。</p>

第4節 ふるさと情報の収集と提供

<p>取り組み方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと百科たてやま大事典」の充実, 情報の更新を図ります。 ・ふるさと情報の収集・提供機能強化のため, 博物館・図書館の郷土資料を充実します。 ・集積した情報を有効に活用・発信し, 文化活動をはじめ観光立市の推進, まちづくり施策に活かします。 ・歴史・文化などの地域資源情報を洗い出し, 整理・活用・発信することで, 改めて市民一人ひとりが地域の魅力を再認識し, 「ふるさと館山」に対する誇りや愛着心が育成されるよう努めます。 ・博物館・図書館での積極的な郷土資料の収集・保存・提供により, 次代の市民に地域の歴史, 文化の継承を図り, 全国に向けて「ふるさと館山」の魅力をアピールします。
---------------	---

<p>計画事業名 【担当課】</p>	<p>事業概要 ■実施計画</p>
<p>地域情報の発信 【生涯学習課】</p>	<p>市民が収集し, まとめた自然・歴史・生活等に関する情報を, NPOとの協働によりデジタル情報化し, ホームページで「ふるさと百科たてやま大事典」を公開しています。今後は, 情報の追加・更新を図るためのシステムの見直しや「館山フィールドミュージアム」との融合など内容の充実を図り, 更なる利便性の向上, 地域の魅力発信に努めます。</p> <p>【現況値：項目数 3,055 アクセス数 10,000 (年間)】</p> <p>【目標値：項目数 10,000 アクセス数 50,000 (年間)】</p>

	<p>地域の歴史文化などを伝えることができる市民を育成するため、地域資源についてテーマ別の『おもてなしガイドブック』を作成し、ふるさと学習の推進を図ります。また、戦国大名里見氏の歴史の正確な理解を図ることを目的に、小・中学生を対象にした歴史副読本『さとみ物語』を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「ふるさと百科たてやま大事典」と「館山フィールドミュージアム」の統合 ■生涯学習ブログ「たてやま発見伝」による地域情報の発信 ■歴史副読本『さとみ物語』作成事業 ■『おもてなしガイドブック』作成事業
実施状況	<p>平成25年度に作成した歴史副読本「さとみ物語」を増刷し、一般向けに配布（販売）を行いました。また、館山市教育問題研究委員会での検討結果を踏まえ、平成27年度から、本資料を教材として、小学校、中学校の学習カリキュラムに取り入れられることが決定しました。</p>
成果と課題 【○成果◆課題】	<p>○里見氏の正史を伝える資料として、一般市民等に提供することにより、正しい歴史認識に繋がるとともに、郷土に対する誇り、愛情の醸成が期待できます。</p> <p>○学校の授業で里見氏を取り上げることにより、児童が故郷の成り立ちへの理解が進むとともに、郷土の誇りと愛情の育成への効果が期待できます。</p> <p>◆正しい歴史認識を伝えていくため、継続して本媒体などを活用した広報活動が必要です。</p>

郷土資料の収集と提供 【博物館・図書館】	<p>市民への学習機会の提供に併せ、広く全国に向けて郷土たてやまの歴史・文化などの地域資源や魅力をPRするという観光的な視点からも、博物館や図書館の郷土資料の収集や提供機能を充実させます。</p> <p>【博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館山の歴史・生活文化等に関する調査・研究事業の充実 ・博物館資料のデータベース化と収蔵資料目録の整備・ホームページでの公開 <p>(収蔵資料目録の目標公開点数：約40,000点 収蔵資料目標点数：約70,000点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■古文書・民俗芸能の調査研究 ■収蔵資料目録の作成 <p>【図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土に関する資料について、活字資料のほか、映像資料や音声資料・電子媒体資料など多様な資料を系統的に収集し、提供します。(郷土資料の所蔵目標点数：6,500点 年間目標貸出点数：310点) ・地域の機関や団体が発行しているチラシやパンフレットなどの資料を収集し、提供します。 ・図書館専門職等による郷土資料に関する調査研究支援（レファレンス）を実施します。 <ul style="list-style-type: none"> ■郷土資料の収集 ■レファレンスの実施
実施状況	<p>【博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付・購入・移管・受託により合計917点の郷土資料を収集し、本館・分館合わせての収蔵資料点数は、74,000点以上（受託・借用分を含む）になりました。 ・受入れ手続きの終了した新規収蔵資料を内部用データベースに登録し、

	管理しています。 ・展覧会のテーマに合わせ、担当学芸員が地域の歴史・生活文化等の調査を進めました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	【博物館】 ○貴重な地域資料を収集することができました。 ○資料情報をデータベースに登録することにより、適切な管理を行っています。 ◆展覧会のための調査ではなく、地域の歴史研究充実のため中長期的な展望での調査・研究が望まれます。 ◆収蔵資料目録の公開は実現できておらず、今後の課題となっています。

第5節 生涯学習関連施設の整備

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習拠点としての機能を向上させるとともに、利用者に安全で快適な利用環境を提供するため、社会教育施設の整備に努めます。 ・展覧会を中心とする博物館事業の拡充を促進するため、その基盤となる博物館資料の整備充実を図り、来館者増に努めます。 ・図書館電子システムの充実を図り、図書館と近隣の社会教育施設との一体的な活用により、市民サービス及び利便性の向上に努めます。 ・利用者視点や地域づくり視点に立った地区公民館の再編・再配置を検討し、博物館の機能統合を行います。
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
社会教育施設の整備 【博物館・図書館・中央公民館】	博物館・図書館・中央公民館等の社会教育施設の整備に努め、利用者に安全で快適な利用環境を提供するとともに、学校教育施設との連携を図り、地域における学習の場や地域活動を支える拠点としての機能の充実に努めます。 ■図書館・公民館の施設・設備の維持管理 ■博物館施設機能の維持管理
実施状況	【中央公民館】 コミュニティセンターや地区公民館などの施設環境を維持するため、改修や修繕等の整備を行いました。 ・コミュニティセンター トイレ改修工事（3階男女トイレ各1基の洋式化） 雨漏り修理工事（第1集会室） 交通標識改修工事（高さ制限標識改修） 空調機室外機修繕工事（和室・ロビー用） ほか ・ホール 若潮ホール 空調機配管修理工事 菜の花ホール ブラインド修理交換 ほか ・地区公民館 館山 空調機室外機修理（調理室） 神戸 空調機更新工事（会議室） 豊房 空調機更新工事（会議室） 館野 雨漏り修理 ほか
成果と課題 〔○成果◆課題〕	【中央公民館】 ○コミュニティセンター3階トイレの一部洋式化をはじめ、地区公民館等

	<p>の修繕を実施し、利用者の利便の向上、及び施設機能の維持を図りました。</p> <p>◆施設利用者の安全性及び利便性確保のためには、施設的环境整備が必要ですが、改修工事については計画通りに進んでいない状況にあります。</p> <p>また、施設の延命やトータルとしての経費節減のためにも、抜本的な施設整備が必要です。</p>
--	---

博物館機能の強化 【博物館】	<p>館山市の歴史・文化や房総半島の漁業に関連する資料の購入・制作等により、常設展示や企画展示の充実に努め、郷土研究の進展を図ります。また、本館・館山城・分館(渚の駅の博物館)の一体化した運営を行うため、3館の機能を統合した効率的な運用と事業展開を推進していきます。</p> <p>■博物館本館・館山城・分館の機能統合による効率的な運営</p> <p>■博物館資料の購入</p> <p>■地域資料の寄付受入れ</p>
実施状況	<p>・正職員全員を本館勤務として、分館へは必要に応じて出向く体制を構築しました。また、分館の施設を管理する商工観光課に学芸員1名を配置し、博物館との併任といたしました。</p> <p>・博物館資料の購入 72点</p> <p>・地域資料の寄付受入れ 749点</p>
成果と課題 【○成果◆課題】	<p>○職員の常駐を本館のみとしたことで、更に運営の効率化が図れました。</p> <p>○市民並びに周辺地域住民の理解・協力により、多くの寄付資料を受入れ、収蔵資料の充実が図れました。</p> <p>◆分館に博物館職員が常駐しないことから、分館収蔵資料の維持管理や来館者対応等について不都合が生じないよう十分な注意が必要です。</p> <p>◆収集した多種多様な収蔵資料を適切に保存管理し、今後の展示・郷土研究へ有効に活用していくことが課題となります。</p>

図書館機能の強化 【図書館】	<p>図書館資料の効率的な管理やインターネットを利用したサービスの提供に必要な電子システムの充実を図ります。また知の情報拠点としての機能を向上させるため、隣接する中央地区学習等供用施設(菜の花ホール)との一体的な活用を推進し、開架図書を増やします。</p> <p>■図書館電子システムの充実</p> <p>■図書館と中央地区学習等供用施設の一体的な活用</p>
実施状況	<p>・WindowsXPのすべてのサポートが終了する平成26年4月9日までにWindows7対応のパソコン等を購入し、6月30日までに電子システムを更新し、7月3日から稼働しました。</p>
成果と課題 【○成果◆課題】	<p>○電子システムの更新により、保有データの安全を確保し、効率的な運用が図られました。</p> <p>○貸出一覧のレシートが出せるようになり、利用者が貸出中の図書を確認しやすくサービスの向上が図られました。</p> <p>◆更新した電子システムを活用し、さらなる市民サービスの向上を検討する必要があります。</p>

Ⅳ 豊かな文化の振興と歴史の継承

第1節 優れた芸術・文化に親しむ機会の提供

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた芸術・文化に親しむ機会の提供 ・小・中・高校生など、より多くの幅広い市民層に優れた芸術文化に触れる機会・参加する機会を提供するための創意工夫 ・芸術・文化活動を通じた市民同士のコミュニケーションの向上や地域の個性を育む機運の醸成
--------	--

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
芸術・文化公演の鑑賞機会の充実 【生涯学習課】	<p>千葉県南総文化ホールや館山音楽鑑賞協会との連携を図るとともに、文化庁や企業メセナの助成制度を活用し、クラシック音楽や演劇、ミュージカルなど、幅広いジャンルにわたる芸術・文化公演の鑑賞機会の充実に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■館山音楽鑑賞協会主催定期演奏会への支援 ■千葉県南総文化ホール自主公演事業との連携
実施状況	館山音楽鑑賞協会が実施する年2回の定期演奏会実施事業に対する助成（補助）、演奏会開催時の情報発信などの支援を行いました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○定期演奏会の開催を通じ、市民に音楽鑑賞機会を提供することができました。定期演奏会については、小・中・高生は無料となっていることから、児童が気軽に優れた音楽に親しむ機会にもなっています。</p> <p>◆館山音楽鑑賞協会員の高齢化、メンバーの減少などによる活動の低迷が懸念されることから、助成だけでなく幅広い支援が必要です。</p>

文化活動への支援 【生涯学習課】	<p>「館山市文化祭」・「館山市芸術フェスティバル」などの各種芸術文化活動の発表する場を提供するとともに、芸術・文化の鑑賞や参加する機会への要望にこたえていくために、各文化団体の自主的な活動を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■館山市文化祭の開催支援 ■館山市芸術フェスティバルの開催支援
実施状況	館山市芸術文化協会が実施する文化祭事業に対する助成（補助）、文化祭開催時の情報発信などの支援を行いました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○文化祭などの開催を通じ、市民が優れた芸術、文化に親しむ機会を提供することができました。</p> <p>◆各文化団体構成員の高齢化、メンバーの減少などによる活動の低迷が懸念されることから、助成だけでなく幅広い支援が必要です。</p>

第2節 新しい文化の創造

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国大学フラメンコフェスティバル」を継続し、館山市の気候や風土、街並みと調和した魅力あるイベントの展開に努めます。 ・文化団体やサークルとの連携による地域間交流や世代間の交流の可能性を検討します。
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
全国大学フラメンコフェスティバル	「若さと活気に溢れた館山市」、「フラメンコのまち館山」といったイメージを全国に発信し、フラメンコをきっかけとした交流人口の拡大を図

の開催 【生涯学習課】	ります。 ■全国大学フラメンコフェスティバルの開催 ■花火とフラメンコの開催 ■フラメンコ事業にかかる情報発信の強化
実施状況	全国の大学生、市民団体、商工会議所、行政が連携し、全国的にも類を見ないフラメンコ事業「全国大学フラメンコフェスティバル」を開催しました。平成26年度は第20回目を迎えたことから、プロとして活躍されているOG、OBも招聘し、記念事業を実施しました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	○館山市の夏のイメージイベントとして定着し、市外からの来訪者も多く、経済効果も期待できる事業となっています。また、本事業に参加した大学生にとっては、館山市を第2のふるさとという認識をもっている学生も多く、子どもを連れて再訪するなど交流人口の拡大にも寄与しています。 ◆少子化により大学のフラメンコサークル数が減少していることから、イベント内容、現在の実施規模を維持しながら、OG、OBの参加、他自治体で実施しているフラメンコ事業との連携など質を高める工夫が必要です。

第3節 個性と伝統ある歴史・文化の継承と発信

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の種類や特性に応じた保存・整備事業を計画的に促進します。 ・文化活動をはじめ、観光振興、まちづくりのベースとなる地域資源である文化財の適切な保全活動を推進します。 ・「里見氏の歴史」、「青木繁《海の幸》」を軸とした、歴史・文化交流を推進します。 ・館山市の歴史的特性を象徴する史跡等の国指定を目指し、調査研究を進めます。 ・国指定史跡「里見氏城跡 稲村城跡」について整備を進めるとともに、歴史文化的な観光スポットとするため、情報発信に積極的に取り組みます。 ・館山市指定史跡「館山海軍航空隊赤山地下壕跡」、館山市立博物館本館及び館山城、館山市立博物館分館や海辺の広場を包含する「“渚の駅”たてやま」を拠点に、周遊しやすい仕組みづくりを推進します。 ・民俗芸能の後継者養成・確保のための諸条件の整備や、中断している民俗芸能の復活・再生支援のための方策を検討していきます。 ・地域の生活や産業と密接に関連し、伝承されてきた芸能などの無形民俗文化財を、後世に継承していきます。 ・歴史・文化活動を実践している市民団体の活動を積極的に支援します。
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
文化財の保存・整備 【生涯学習課・博物館】	館山市の歴史や文化を正しく理解し、情報発信していく上でかけがえのない財産である文化財を保護・保存・活用することで、館山市の歴史的特性を理解し、正しく後世に伝えるとともに、文化財の種類や特性に応じた保存・整備事業を計画的に推進し、安全な環境で一般公開できる指定文化財を増加させるよう整備します。また、文化財を活用した街づくり、観光振興に努めます。 ■館山市の文化遺産を活用した観光振興・地域活性化事業の支援

	<ul style="list-style-type: none"> ■「戦国大名里見氏」「南総里見八犬伝」「房総半島の海と生活」をはじめとする歴史・文化資源の情報発信 ■館山市指定文化財「小谷家住宅」保存活用支援事業 ■歴史的建造物の国文化財登録事業
実施状況	<p>【生涯学習課】</p> <p>千葉県有形文化財（建造物）「那古寺多宝塔附木造宝塔」及び館山市指定有形文化財（建造物）「小谷家住宅」の改修事業（ともに平成26年度・27年度の2ヵ年事業）に対し、助成（補助）を行いました。</p> <p>【博物館】</p> <p>里見氏の安房国替から400年という節目に当たる年であったことから、里見氏が残した遺産としての館山城下町の成り立ちや、安房地域に残された里見氏の古文書を紹介する特別展を二期にわたり開催したことに合わせ、展示図録や館山城下町調査報告書を刊行して、館山市と里見氏のつながりを再確認できるよう情報を発信しました。</p>
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>【生涯学習課】</p> <p>○文化財の適切な保存、管理を支援することで市民の歴史、文化への意識の掘り起こしや来訪者の増加にも繋がっています。</p> <p>◆文化財の指定件数が増加していくため、適切な保存、管理を所有者（管理者）に行ってもらう必要があります。</p> <p>【博物館】</p> <p>○貴重な情報を印刷物に集約することができました。里見氏情報の普及や里見氏研究・地域史研究の発展に寄与することができます。</p> <p>◆印刷物の内容をより市民に理解していただくための、印刷物を活用する場を設けることが必要です。</p>

国指定史跡「里見氏城跡 稲村城跡」の保存・整備 【生涯学習課】	<p>国指定史跡「里見氏城跡 稲村城跡」の計画的な保存・整備を実施します。また、観光資源としての活用を促進し、歴史的な観光スポットづくりによる地域振興に結びつけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■稲村城跡保存管理計画策定事業 ■稲村城跡土地公有地化事業 ■稲村城跡保存整備計画策定事業
実施状況	<p>史跡区域及び周辺の適切な管理運営のため、地元稲区に草刈り等の管理委託を行うとともに、看板の設置を行いました。</p>
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○地域住民と連携した事業を通じて、地域住民との連携意識が醸成されているとともに、環境の保全を行うことができました。</p> <p>◆観光資源としての魅力が高いことから、周辺で予定されている事業と調整を図りながら、未指定部の追加指定を目指すとともに、周辺自治体や観光事業者との連携など、継続的に取り組み、「保存管理計画」に基づき、「保存整備計画」の策定を目指す必要があります。</p>

民俗芸能伝承者の育成 【生涯学習課】	<p>芸能などの無形民俗文化財を後世に継承するため、市民の理解と認識を深めるとともに、伝承者の育成、確保を通じて、伝統文化の振興とそれを活用した地域の活性化に努めます。</p> <p>また、特に民俗芸能継承の諸条件の整備や地域の民俗芸能の相互交流を促進し、後継者の確保による館山市の民俗芸能の保護・活性化を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■第54回関東ブロック民俗芸能大会の開催支援 ■たてやま村歌舞伎保存会など民俗芸能保持団体の支援
実施状況	<p>房総の郷土芸能2014への民俗芸能保持団体の出演支援を行うとともに、「館山のふるさと伝統文化支援補助金」を市内各地区で伝統文化の</p>

	保存等に取り組んでいる団体に交付しました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○各種大会への参加支援を通じて、民俗芸能保持団体間の相互交流が促進されました。また、補助金交付により、それぞれの団体、地域において、活動の活性化につながるきっかけとなっています。</p> <p>◆伝承者の減少、高齢化、さらに活動資金の不足等により、民俗芸能保持団体の存続が危ぶまれることから、支援方法も含め、継続的な検討、各団体との情報交換が必要です。</p>

V 教育行政の充実

第1節 開かれた教育行政の推進

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の透明性を高めるため、教育委員会議や活動内容を広報やインターネット等で積極的に公表します。 ・各学校（園）における特色づくりを支援するため、学校（園）予算の計画的・弾力的な執行に努めます。 ・校長がリーダーシップを発揮し、特色ある学校づくりを推進するため、校（園）長の意見具申を最大限に尊重しながら人事配置を行うなど、校（園）内の組織体制づくりを支援します。 ・各学校において特色ある教育活動を展開できるよう、教育内容や指導方法の工夫改善に関わる教職員の配置や指導に努めます。
--------	---

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
市民に開かれた教育行政の推進 【教育総務課】	広報やインターネット等を活用し、教育委員会会議や施策、学校教育、社会教育（文化、スポーツ等）の幅広い分野の活動を、積極的にわかりやすく情報提供します。 ■教育委員会議の議事録概要公開（ホームページ） ■教育委員会会議の公開
実施状況	・広報やインターネットなど各種広報媒体を活用し、教育委員会会議や学校教育、社会教育の活動状況の情報を積極的に提供しました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	○教育委員会会議の要旨を公開することにより、審議内容などを広く住民に周知することができました。

開かれた特色ある学校（園）づくりへの支援 【教育総務課・こども課】	各学校（園）における特色づくりを支援するため、学校（園）予算の計画的・弾力的な執行に努めます。 ■学校（園）予算の計画的・弾力的な配当
実施状況	・学校運営の特色づくりを支援するため、年度当初に消耗品、燃料費等一定項目の予算を学校に一括配当しました。
成果と課題 〔○成果◆課題〕	○学校長の裁量による計画的・弾力的な予算執行をすることができました。

第2節 主体的な教育行政の展開

取り組み方向	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育行政課題に対応するため、毎月の定例会や臨時会を開催します。 ・館山市教育基本計画に基づいた教育行政全般の点検・評価を実施し適切な振興管理を進めていきます。
--------	--

計画事業名 【担当課】	事業概要 ■実施計画
教育委員会運営の充実 【教育総務課】	毎月一回の定例会、必要に応じて臨時会を開催し、様々な教育行政課題に迅速に対応します。 ■教育委員会会議の開催 ■教育委員による社会教育施設や学校（園）の訪問

実施状況	<p>・様々な教育行政課題に対応するため、毎月の定例会や臨時会を開催し、審議しました。</p> <p>定例会12回 臨時会2回 議案44件</p> <p>教育委員による小中学校や幼稚園への訪問を実施し、各学校で抱える教育課題など意見交換を行いました。</p>
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○教育現場等の実態を把握することにより、よりよい教育行政の推進に向け、活動することができました。</p> <p>◆教育委員の施設訪問の回数・時間など、更に検討していく必要があります。</p>

事務局の教育行政能力の強化 【教育総務課】	<p>教育委員会の企画・指導・助言機能を充実させ、地域住民の多様な要望にこたえるきめ細かな教育行政を展開するため、指導主事、学芸員、司書など専門職員を配置し、事務局の教育行政能力の強化に努めます。</p> <p>■専門職員の配置等の促進</p>
実施状況	<p>・教育委員会事務局に主任指導主事2名、指導主事2名が配置されました。</p>
成果と課題 〔○成果◆課題〕	<p>○学校教育の指導助言を行い、教育力向上のための授業指導や学校からの様々な相談・課題に対応することができました。</p>